



賛助会員・機関誌購読者のみなさま、および
「3.11からの出発」活動基金にご寄付くださったみなさまへ

2013.4.20

「3.11からの出発」活動のご報告 No.9

松岡享子

2013年3月18日、お願いして、小友小学校の卒業証書授与式に参列させていただきました。紅白の幕の張られた体育館。校長先生は紫がかった明るいピンク、6年生担任の関戸先生は、渋いグリーンと、おふたりとも美しい色のお着物にきりっとした袴姿で、それだけでも改まった気分です。来賓には、教育委員会の方のほか、地元の警察（交通安全担当）や消防団の方、民生委員に保育園の先生などが顔を揃え、子どもたちが、これまでこういう人々に地域ぐるみで見守られてきたのだなあとしみじみ感じました。校長先生の式辞も、形式ばらないもので、この日のために在校生が植えたチューリップの花の話にはじまり、松島への修学旅行や、なでしこジャパンの佐々木監督が来校して指導してくれたときのことなどをやわらかなことばで語り、列席したわたしたちも、卒業生とともに、思い出深い学校生活を辿ることができました。細かいことは、いっしょに行った小関理事の報告にまかせることにいたしますが、この節目のときに立ち会えて、子どもたちのこれからに幸多かれと祈ることができたことをありがたく思いました。

朝早い式のため、前夜に行って泊まったので、その機会を利用して、「ちいさいおうち」の職員3人に地元のボランティアグループ「おはなしペパン」のメンバーを加えた数人の人たちといっしょに夕食をとりながら、ゆっくり話し合うことができ、幸いでした。みなさんのお話をうかがっていると、復興がそう容易に進むものではないことを教えられます。陸前高田の市内は、長い間震災当時のまま手つかずで放置されていた市役所、図書館、博物館、体育館など大きな建物の撤去作業も終わり、道路沿いにお店も増えてはいますが、そこに住む人たちの暮しということになると、とても“落ち着く”という状態にはいかないようです。ある集落は、全体で高台に移ることを決めたそうですが、土地の整備だけで3年ほどはかかるということでした。そこにライフラインが通り、家を建て、暮しはじめられるのには、さらに1年や2年はかかるでしょう。長い、長い道のりです。

それでも、みなさん、初めてお会いしたときに比べるとお元気になられたように思われ、安堵しました。とくにペパンの代表で、同時に人形劇グループ「ポレポレ」の代表でもあるBさんは、グループ結成20周年記念、震災後初めての公演が大成功だったようで、ひときわ表情が明るくなっていらっしやるのが印象的でした。仲間を失い、人形も道具もすべて流されたあと、手づくりでの再出発は、たいへんだったとは思いますが、その過程をともに辿ることで、仲間の結束も固まり、メンバーひとりひとりの元気も戻ってきたのだろうと推察しました。この秋には香川県からも招待されているとかで、わたしたちも応援したいと思います。

今回は、「ちいさいおうち」には、ほんのわずかの時間しか立ち寄れませんでした（おまけに、休館日）が、訪れるたびに、室内に、使われることによって生じる温かみ加わっているのを感じることができ



ました。前々号の報告で、お隣にできたログハウスの市立図書館のことをお話し、「ちいさいおうち」とは、ヘンゼルとグレーテルのように仲のよい兄妹となるようにと願いましたが、やはり来館者が増えるという相乗効果はあるようです。

市立図書館が再建されるまでには、まだあと何年もかかるでしょう。でも、その日がきたら、「ちいさいおうち」の運営母体であるうれし野こども図書室の高橋さんも、わたしも、「ちいさいおうち」が、蔵書だけでなく、そこで育った利用者、そこに蓄えられたノウハウとともに、新しい市立図書館の児童室に融合され、さらに大きく発展することを願っています。陸前高田は、震災前2万をこえていた人口が、すでに1万7千人くらいに減っているといえます。乳幼児健診の様子を見ても、子どもの数の激減を感じることも聞きました。

財政にゆとりのある状況がここ10年ほどの間に生まれるとは思えません。となれば、行政と民間が、協力できるところは上手に協力し、お互いにできないところを補完しあって、何よりも市民によりサービスができるようにやっていかなければなりません。現在も、「ちいさいおうち」は、市から土地の使用を認めてもらっていますし、パートタイム職員、光熱費の提供も受けています。こうした協力関係が、今後もうまく継続し、図書館再建の力にもなって、官民協力のよいモデルとなるようにというのがわたしたちの大きな夢です。



松岡理事長に随行し、陸前高田に行きました。小友小学校の今年の卒業生は男女6名ずつ12名の、まさに「二十四の瞳」です。卒業式会場の舞台には「広い世界へ」と書かれたパネルが飾られ、小学校を巣立っていく子どもたちを祝福していました。澤里校長先生、関戸先生がきりっとした姿勢で、ちょっとぶり大きめの晴れ着の卒業生ひとりひとりに卒業証書を手渡し、来賓の方たちの祝辞からも、ともにこの大震災を乗り越えてきた「同士」への熱い思いが伝わってきました。巣立ちのことばに続き、在校生と向き合って、壇上の卒業生が交互にうたう合唱曲も練習の成果がうかがえる見事なものでした。歌声を聞きながら、涙腺が緩み、涙と鼻水でぐじゅぐじゅになったのは、花粉症のせいばかりではありません。進学先の新設される中学校の校長先生には、小友中学校の校長先生が赴任されるとのこと、新しい世界へはばたいていく卒業生にとっても心強いことと思います。

まだ暖房が恋しい、雨の卒業式でしたが、「わが庭の竹のはやしの浅けれど 降る雨みれば春は来にけり」という牧水の短歌のように春はすぐ近くまで。4月からは校長先生はじめ大きな異動があり、新しい陣容でのスタートです。卒業記念の梅の苗木が大きく育ち、花が咲き、実がみのるまで末ながく小友小学校とのご縁を大切にしたいと思います。次回の訪問で、新1年生に会うのが楽しみです。

(小関知子記)

公益財団法人 東京子ども図書館

〒165-0023 東京都中野区江原町1-19-10 Tel.03-3565-7711 Fax.03-3565-7712 URL <http://www.tcl.or.jp>

振込先 ゆうちょ銀行／郵便局 口座記号番号 00130-9-115393 加入者名 公益財団法人 東京子ども図書館

*報告のバックナンバーは、ホームページでもお読みいただけます。